

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2017 / 3

災害シンポジウム開催

その時、熊本は、横浜の備えは？

今年の災害シンポジウム(一月二十四日開催・参加者百名)は、熊本からの被災報告と横浜の取り組みをとりあげた。今回はシンポジストの発言を紹介。

■熊本では・・・

谷口建太氏・被災時、小学校の体育館は安全面で不安があり、運動場で六百名程が夜を明かした。安否確認ではLINEがとても役立つ。水道・ガス等は二週間程止まり、熊本市内のマンシオン



被災地の報告の様子

でも傾きがあり現在もそのまま。普段からの避難訓練、関連機関・個人とのつながりが本当に大事。福島龍三郎氏・九州ネットワークフォーラムは、福祉事業従事者で作る研修等のネットワーク。被災時は物資の受付・提供、益城町入所施設への人的派遣等を行った。公的支援は時間がかかるため最初は個別のネットワークが役立つ。今回、ネットワークや信頼関係が出来ていたので、早い対応が可能となった。若松周平氏・大阪府を中心に障がいのある人や子ども若者支援などを行っている。被災時は、御船町社会福祉協議会の災害ボランティアセンターの一員としてニーズ調査、福祉施設への物資支援や専門職派遣を行った。その中で避難所での

迷惑を恐れて倒壊しそうな家で暮らし、夜は車で寝る方もいる事がわかった。そのため、在宅避難者の戸別訪問を実施し、必要な支援につなげた。訪問活動では、既存の事業所ネットワークと地元区長・民生委員や行政とスムーズに連携できた事が良かった。

■横浜では・・・

港北区「北綱島小学校地域防災拠点」

山根英洋氏・地域に特別支援学校があり、障害者の避難訓練について配慮してきた。車いすの避難体験に始まり、地域の障害団体と

話し合い、工夫しながら地域住民への啓発活動を続けている。ともかく実施しないと前には進めない。

畔柳三笑氏・障害のある子どもの親の会が中心となり、子どもが興味を持ちやすいよう、動物が登場する人形劇で啓発活動をしている。今後も障害児・者への理解が進むよう活動を続けたい。

また横浜市総務局危機管理室緊急対策課より「横浜市総合防災訓練」の取り組みについて報告があった。熊本の経験を横浜の備えに生かそう。

災害シンポジウム

障害者支援をとおして

被災地の現状と課題を知る
～災害時に備えた地域での取り組み～

主催

横浜市障害者地域活動ホーム連絡会、横浜市障害者地域作業所連絡会、横浜市グループホーム連絡会、セイフティーネットプロジェクト横浜

協力 TEAM 3

主な内容

1 被災地からの報告

- (1) 特定非営利活動法人み・らいず(大阪市住之江区) 常務理事 若松周平氏
- (2) 熊本県障害者福祉作業所連絡協議会 担当委員 社会福祉法人若葉会 若葉作業所施設長 谷口建太氏
- (3) 社会福祉法人はる(佐賀県佐賀市) 理事長 福島龍三郎氏

2 横浜市港北区「北綱島小学校地域防災拠点」防災訓練について

- (1) 北綱島小学校地域防災拠点 山根英洋氏
- (2) 港北区社会福祉協議会セイフティーネット分科会 おおぞら会 畔柳三笑氏

3 横浜市総合防災訓練の取り組みについて

横浜市総務局 危機管理室緊急対策課担当係長 山下勝氏

望遠鏡

横浜市障害者後見の支援制度は、十八歳以上の障害のある人が登録の対象です。住み慣れた地域で安心して暮らすために、

平成二十二年十月から始まりました。この制度を実施する後見の支援室は、この三月、瀬谷区・中区が加わり市内十八区すべてに整備されます。

登録すると、あんしんマネジャーさんやあんしんサポーターさんを紹介され、障害のある本人の思いや家族の思いを伝えることができます。支援室は生涯にわたり寄り添いながら、本人の願う地域での暮らしの実現に向けて一緒に考えてくれます。支援室が定期的に面談を重ねることで信頼関係がはぐくまれます。すぐに何かが変わるわけではありません。言葉の話せない人は、身振りや様子から理解を深めます。話せる人は、暮らしの中でうれしいこと、困ったことなどを少しずつ伝えることができるようになれば、親はひと安心です。

後見の支援室は、何より本人の思いをくみとり共有してくれる場として、地域での大切な役割を担っています。
(横浜障害児を守る連絡協議会 長谷山景子)

あゆみ荘 だより

横浜あゆみ荘施設紹介 シリーズ第三回 食事

横浜あゆみ荘の設備や工夫を紹介するシリーズ。今回はお食事を紹介します。

横浜あゆみ荘では、宿泊と休憩のお客様向けに懐石風のお食事をご用意しております。



夕食例「旬菜御膳」

障害のある方向けに、ご要望に応じて「裏ごしミキサー」「ミキサー」「粗ミキサー」「きざみ」「一口大」「通常」の6種類の形態からお選びいただけます。ご飯もお粥はもちろん、粒なしミキサー粥などもございますので、お申し付けください。



ミキサー「和風御膳」

また、アレルギーなどにつきましても可能な限り対応させていただきますので、お問い合わせください。

なお、独自に作成しているコースターの文字は「よこはま障害者共同受注総合センターわーくる」より紹介された「港北区障害者地域活動ホームしもだ」の大原友子さんの筆によるものです。今後も障害者の方の作品をコースターにしてご来荘の皆様にお楽しみいただく予定です。



力強い毛筆のデザイン

「カラオケ教室」開催

十一月十九日、二十日の二日間『障害者のためのカラオケ教室』大好きな曲を上手に歌って自慢しよう！を開催しました。

二日間で総勢十三名の方が参加し、日本アマチュア歌謡連盟認定講師柳瀬寛先生の指導により、腹式呼吸のコツなど、参加者一人ひとりに合わせた技術指導が行われました。参加者の皆さんは笑顔いっぱい自慢の持ち歌を披露されていきました。

「チア教室」開催

十二月四日、『障害のあるお子さんのためのチア教室』を開催しました。

講師として、横浜をホームとするプロバスケットボールチーム横浜ビーコルセアーズのチアリーダーズ「ビー

「感謝の集い」開催

平成二十九年「感謝の集い」が二月十一日、横浜ラポールにおいて開催された。

永年にわたり関係団体への物心両面からの支援・協力をいただいている方々へ感謝の意を表し、交流を深めることを目的に開催している。障害者支援センターの主催。

当日は、受賞者・来賓など約百八十名が参加、森センター長より感謝状と記念品を贈呈した。

また、アトラクショでは、シンガーソングライターの「Kosei」さんのキーボード演奏と「港南福祉ホーム」の皆さんによるゾウノハナたいそうをご披露いただき、楽しいひと時を過ごした。

式典終了後には、懇親会に移り、参加者が交流を深めた。

感謝の集い受賞者

- 武内和雄様、小尾啓子様、市川桂子様、泉原真理子様、矢田喜美枝様、川岸美恵子様、五十嵐孝子様、高橋雅美様、柏木優子様、手話サークルほしの会様、甲野文雄様、金子とも子様、東谷美恵様、菊地佐斗子様、井本恵美様、田中美子様、八尋孝雄様、松野洋介様、宮崎一恵様、安斎弘子様、深谷友加様、岩邊あゆみ様、柴田茂治様、渡辺幸代様、岩崎昌代様、神奈川区神北地区民生委員・児童委員協議会様、前田啓三様、青木八重子様、小川則子様、日原雅子様、荒川ふさ江様、吉川秀一様、泉水恵子様、小田原守洋様、蜂谷博一様、沖礼子様、小長谷光子様、長谷山景子様、富永よね子様、小林正雄様、近藤嘉朗様



ヨコハマの「Y！」

ローズ」の皆さんにご協力をいただきました。参加したのは市内在住の障害のあるお子さんと、都筑地区センターの小中学生ボランティアグループ「都筑Jクラブ」のメンバー、総勢十二名。

チアダンスの基本的動きをしっかりと学んだ後、チアダンス「アイラブ・ヨコハマ」を練習しました。優しく丁寧な指導のもと、最初は動きの硬かったお子さんたちもたちまち上達し、最後は元気よくダンスを発表、ご家族の皆さんとともに盛り上がりました。